

想いを形に残す

「わたしの思い出つづり」を活用したインタビュー

「わたしの思い出つづり」は、これまでの人生を振り返り、記録に残すことができるメッセージノートです。周囲にとっては、その人の人柄や大切にしていることを知ることができる大切な記録になります。

さらに私らしい人生を全うするにはどのような医療や介護のケアを受けたいのか、最期をどこで過ごしたいのか、元気な時に自分の意思を記録し、家族や周囲の人と共有することを勧めています。



「わたしの思い出つづり」は、町地域包括支援センターや役場介護保険係窓口、町ホームページからダウンロードすることができます。詳しくはお問い合わせください。
●問い合わせ 町地域包括支援センター ☎096(292)0770

ふるしょうえいこ 古庄榮子さんの思い出

古庄さんは矢護川出身、7人兄弟の長女として農家に生まれました。女学校に入学した頃、戦争を体験。空襲警報が鳴れば防空壕に逃げ込み、勉強どころではありませんでした。女学校を卒業し、農家の仕事を手伝い、21歳で結婚。4人の子どもを育てながら、調理や保険会社などのさまざまな仕事に就き68歳まで働きました。「戦時中を生き、子育て、仕事と一生懸命やってきたから今がある。良い友達もたくさんできた」と話し、登山やカラオケなど、共に楽しむ時間を過ごす仲間がいます。「戦争で大変だったけれども当時の曲を歌えば青春時代を思い出す」と話してくれました。出会った縁を大切に、住み慣れた地域でお元気に過ごされています。



普段話づらいこと、伝えたいことを考え、記録を残すきっかけにご活用ください。

園児の願いが叶いますように

大津音楽幼稚園が七夕飾り寄贈

大津音楽幼稚園の園児が6月26日にオクスプラザを訪れ、たくさんの園児の願いがつづられた七夕飾りを寄贈しました。

短冊には「仮面ライダーになれますように」や「アイドルになれますように」などといったほほ笑ましい願い事が書かれており、オクスプラザを訪れた人たちを楽しませました。七夕飾りはオクスプラザとおおづ図書館に飾られました。



園を代表して寄贈に訪れた園児たち

優秀な若者を求めています

大津町企業ガイダンス

翔陽高校で6月26日、企業説明会「大津町企業ガイダンス」が開催され、卒業後民間企業に就職を希望する3年生107人が参加しました。町の企業、73社からなる大津町企業連絡協議会の主催であり、今年で2回目の開催です。町内14社が設けたブースでは企業の担当者が仕事場の映像や自社の商品を見せて、業務内容や企業理念、地元企業で働く意味などを説明しました。生徒は各自で4社を回り、活発に情報交換が行われました。



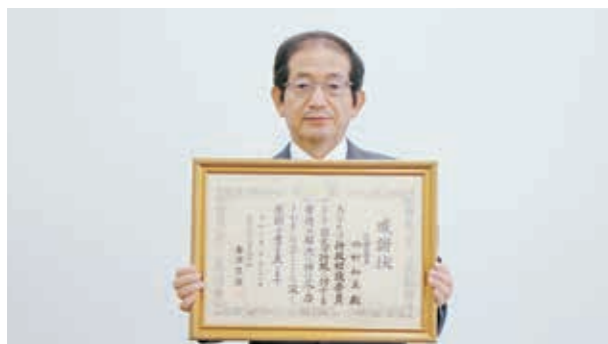
教室に設けられた製造業や運送業、サービス業などのさまざまな業種の企業ブースで説明を熱心に聞く生徒たち

行政相談員感謝状

町地域組織活動クラブから子どもたちへ

大津町の行政相談委員の西村和正さんに熊本行政評価事務所から感謝状が贈呈されました。

行政相談委員は、総務大臣から委嘱された民間有識者で、無報酬で住民から国・県・市町村などの業務に関する相談を受け、相談者への助言や関係機関に対する改善の申入れなどを行っています。西村委員の日頃の尽力が高く評価され、感謝の意が表されました。



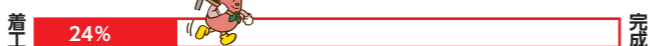
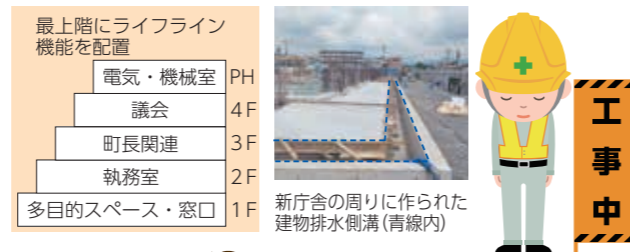
感謝状を贈呈された行政相談員の西村和正さん

新庁舎建設レポート

浸水対策により緊急時にも庁舎機能を維持します

新庁舎で想定される浸水の主な原因として、上井手の氾濫が想定されますが、新庁舎設計における地盤の高さ決定では、過去の上井手氾濫時の資料や、当時の状況を知る人から聞き取りした内容を参考にしています。

なお、新庁舎建設地である旧大津小学校グラウンドへの浸水被害は過去発生していないことから、敷地で最も高い海拔117.0mを建物周囲の地面の高さとしています。また、新庁舎における最大の浸水対策は、今まで地下階や1階に配置されていた電気室、自家発電機室および機械室などのライフライン機能を最上階に配置している点です。これは東日本大震災での津波被害や、最近の浸水被害を教訓としており、緊急時の庁舎機能維持を目的としています。



エネルギー問題に貢献

(株)大津技研木質リサイクル工場竣工式

(株)大津技研の木質リサイクル工場の竣工式が7月3日に行われました。この工場は、熊本地震の廃材置き場跡地に建てられました。

木村哲也代表取締役は「エネルギー問題に取り組み、少しでも大津町にお返しをしていきたいです」と述べました。今後は一般廃棄物・産業廃棄物を受け入れ、破碎・選別プラント工程を経て、発電などに利用する木質チップが1日約50トン製造されます。



木村哲也代表取締役(右から3番目) 後ろに見えるのが木製チップを製造する機械の一部

ハンドメイドでニーズに応える

(株)くまさんメディクス平川工場が完成

7月9日に(株)くまさんメディクスの平川工場が完成し竣工式が行われました。(株)くまさんメディクスは携帯電話やゲーム機などに使用されるICチップを製造する「半導体製造装置」を注文通りに設計し、すべてをハンドメイドで組み立てし、搬入・据付を行う会社です。

白瀬社長は「多くの方に支えられて、この日を迎えることができました。お客様のニーズに応えることのできるサービスを提供していきたい」と挨拶しました。



竣工式の様子(テープカットを行う白瀬嗣久代表取締役社長【中央】)